



一人は皆のために 皆は一人のために

わだち

福脊連通信
2024.9
No. 219

編集：福岡県脊髄損傷者連合会 〒820-0303 福岡県嘉麻市中益 879 TEL 090-1346-0093



全国から仲間が集まった愛媛県大会



福岡県支部に本部推薦特別功労賞を授与



公開講演



松本隆博さんの心温まるライブ



安藤事務局長と愛媛県支部長の井谷さん

全国脊髄損傷者連合会第 23 回愛媛県大会報告	2
行ってきました。愛媛県大会	3
地元の障害当事者とバリアフリーチェック	4
筑後南小学校・コミュニティセンターバリアフリー点検	6
【連載】新入会員投稿	7

全国脊髄損傷者連合会第 23 回愛媛県大会報告

会長 大里 恵

公益社団法人全国脊髄損傷者連合会第 23 回定時総会愛媛大会が 2024 年 6 月 9 日（土）・10 日（日）、松山市総合コミュニティセンターで開催されました。

福岡県支部からは大里 恵・東 聖二・根本 秀雄（敬称略）の 3 名で参加しました。

今大会で特に一番注目するところは全脊連の年会費が 3,600 円から半額の 1,800 円となった点だと思います。当福岡県支部でも前年度総会の折り、新規会員からの提案で会員の負担軽減・新規会員が参加しやすくするため支部年会費を半額の 3,600 円に減額することになりました。全脊連本部も同じ考えに至ったのかも知れないと考えています。その他にも会員に対して、かなりの優遇措置が行われています。

今回の全脊連本部の提案により、支部にも会費の半額 1,800 円×会員数分が支部経費として活用できることになり、今後の支部活動にプラスとなりました。

なお、コロナが完全に収束したわけではなく、Web 会議との併用ではありましたが、全国の会員が集結し意見を交わし、他県の方と名刺交換をしたりして、交流を深めることは今回参加して、改めて重要かつ大切な事だと感じました。来年は東京、再来年は北海道で全国大会が開催される予定です。是非、会員の皆さんも現地参加及び Web にて参加してみてください。きっと全脊連の活動が見えてくるはずです。



懇親会



道後温泉

行ってきました。 愛媛県大会

東 聖二

昨年は、地元開催の全国大会で大変でしたが、今回の愛媛県大会は、いち参加者として気軽に参加出来ました。

しかし、初めての愛媛県。どうやって行こうか、あれこれ思案しました。飛行機か、大分からフェリーを利用するか、車のみで行くか3択です。結局、一番費用がかからない車のみを選択。往復1000キロ、車の旅となりました。

6月9日、朝早く起きて高速道路をひたすら走る。山口、広島を過ぎ福山から南下。しばらくすると瀬戸内海に浮かぶ島々を白い橋で結ぶ「しまなみ海道」へ。大浜PAで美しい景色を眺めながら、しばしの休憩。中世の瀬戸内海にいた海賊、村上水軍に想いをはせました。



大浜PAから眺める瀬戸内海の風景

「しまなみ海道」を過ぎるといよいよ四国へ。今治からカーブの多い坂道に苦戦し、ようやく松山市に入り、会場の松山市総合コミュニティセンターに到着しました。さすがに疲労困憊の初日でした。

愛媛県大会で印象的だったのは、会場が公共施設で懇親会の食事はデリバリー。ボランティアの方も多くて暖かい雰囲気が伝わりました。高額なホテルではない、こんなやり方もありだなと思います。何より参加費が抑えられるのはありがたいです。



総会では、全ての議案が可決され、本部に収める会費が2025年度分から現行3600円が1800円に値下げされました。

公開講演で興味深かったのは、重度障害当事者が就労の場で介助が受けられる「重度障がい者等就労支援特別事業」に関する内容でした。問題点として、利用申請の煩雑さ、報酬単価が低く派遣してもらえない事業所が少ない等が指摘されました。今後の課題として全国で制度が受けられるようにする、申請の一本化、報酬単価を重度訪問介護と同等にする等が挙げられました。

また、制度を一本化し、重度訪問介護で就労中の介助を利用することができれば、課題は解決するのではないかという提起もありました。

この制度を知らない方も多いと思います。制度の周知と課題解決のために障害当事者の意見を活かして欲しいと感じました。

総会后、せっかく松山まで来たので、松山城、道後温泉を見学して、蛇口から出るみかんジュースを飲み帰途につきました。

全国の仲間と交流し情報交換ができた有意義な大会でした。今大会の準備等にご尽力いただいた愛媛県支部の皆様、本当にお疲れ様でした。



地元の障害当事者とバリアフリーチェック

大久保健一

私が筑後の皆さんと関りを持ったのはソフトバンクホークスの2軍球場が筑後市に移転してそのバリアフリーを見に行った時からです。このタマホームスタジアム筑後は雁ノ巣球場から比べれば一気にバリアフリーが進みました。ただ他の2軍球場と比べても使いづらい箇所がありソフトバンク球団に要望しました。そうした時にCIL ちくごにお伺いし協力をお願いした事で連携して要望し、次のシーズンから改善をしてもらえました。地元の障害当事者の皆さんと一緒に要望した事でソフトバンク球団も素早い対応につながりました。

こういった経緯で私自身福岡に来ることが多いので色々なバリアフリー等の問題に関わるようになり福岡県脊損連合会の方々とも連携するようになりました。その中で目下、取り組んでいる福岡や佐賀のバリアフリー問題を書いていきます。

□福岡空港

まずは福岡空港のターミナルの建て替えです。関西空港などのバリアフリーに関わった経験から福岡空港もそれ以上に使いやすいバリアフリーになって欲しいので建設工事当初から空港会社に要望を出していました。そしてまず国内線ターミナルが拡張完成したので開業前にバリアフリーチェックとして見せてもらいました。バリアフリースイアのレイアウトや駐車場の段差解消またエレベーターなどの表示、案内カウンターの車椅子向けカウンターの表示などを開業前後に改善してもらうことが出来ました。現在工事中の国際線ターミナルについても関係したエリアから見せてもらっています。地元の障害当事者と一緒にバリアフリーチェックをすることで私たちが指摘しなかった時より使いやすいバリアフリー設備になりました。福岡空港は今年度中に全面開業する

のでその際には全国でも有数なバリアフリーが進んだ空港となります。是非多くの障害当事者が使って欲しいです。

□移動中で起こった事故

次に私が福岡県内を移動する中で起こった事故が2件あります。一つは西鉄バスからスロープで降りるときに転落した事故です。具体的には筑後船小屋駅から久留米に向かう路線バスでワンステップ車両でした。降りるバス停ではバス停に縁石がなく角度もきつかったです。運転手が私の電動車椅子を支えながら降りるときに支える力が弱くそのままスロープの横から脱輪し電動車椅子ごと横に倒れたので私自身の体は地面に投げ出された風になりました。この事故が起こった要因として大きく2点あります。一つはワンステップ車両はスロープの角度が急で事件性が高い（特に縁石で地面が上がっていない場所）事と乗務員の車椅子の扱いが不慣れだった点です。ですからノンステップ車両の導入を増やす事と、障害当事者の参画を含めた業務研修の充実を要望しました。それにより福岡市内では増えているノンステップ車両を久留米地区でも増やすようになり、また業務研修の現場で教官となる方に模擬的な研修を見せて頂いて私達の意見や感想を言う機会を設けてもらいました。まだ引き続き要望を続けるつもりですがこの事故をきっかけに西鉄バスも障害者対応を色々と充実しつつあります。その都度の話し合いで地元の障害当事者に参加して頂き私が気づかない地元目線からの意見を言ってもらっています。

次に西鉄電車での降車時に駅員がスロープで迎えに来なかった事で車両からホームまでの段差を周囲の乗客の方々に持ってもらったという事がありました。通常は降車駅で折り畳み式の簡易スロープを出してもらうのですが

その時、駅員は私が降車するドアの前にいなかっただったので慌てて「駅員さん」と叫び手も振りました。それでも来ない中で電車のドアが閉まってしまい私の手の指が2本ドアに挟まった状態になりました。乗客が社内の非常ボタンを押してくれて急ブレーキの上自動ドアが何とか開きました。周囲にもし乗客がいなかったら指を挟まれたまま発車したので非常に危険な状態でした。その後、まずは原因究明と再発防止をお願いしました。これをきっかけに駅員同士の連絡方法が徹底され、ホームと車両との段差解消を今後、早めてしてもらおう事をお願いしました。それで西鉄天神駅で西鉄職員と地元の障害当事者と一緒にホームのバリアフリーをチェックする機会を得ました。ホームと車両の段差と隙間がないホームをどんどん増やして欲しいとお願いしているところです。そうすれば駅員に介助を頼まなくても単独乗降出来るようになります。

□地下鉄七隈線他

一方で福岡市営地下鉄七隈線は以前より全ての駅で単独乗降が可能で全国でも進んでいる鉄道でしたが、それが昨年、天神南から博多駅まで延伸されたので改めて新しくできた二駅を地元の障害当事者と福岡市交通局と一緒にバリアフリーチェックをしました。新しい駅なので大きな改善事項はありませんでしたが、やはり通路上の急なスロープを色付けする事やバリアフリートイレのレイアウトなど細かい気づいた事をお願いし、少しずつ改善されてきています。

その他、福岡県内の歩道は横断歩道などでの切り下げ縁石の段差が急なので、本州で広まっている緩やかな視覚障害者も認識できる縁石を歩道の担



当者に伝えて、まずは福岡市の国体道路にかかる春吉橋にその縁石が設置されましたので福岡県内各地で設置されることを願っています。

□佐賀国民スポーツ大会

それと今年10月に開催される佐賀県での国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会に合わせ様々な競技会場や道路が建設されたので、主会場となる佐賀サンライズパークを中心に佐賀県の国スポ担当者と地元の障害当事者と一緒に歩いてチェックをしました。ハード的にはあまり問題無かったですが、大会当日の表示や導線などについてお願いしました。表示看板を増やす事やエレベーターが混雑時に誰を優先して誘導するかなどを気づかされました。この事で10月の本番の大会では誰もが安心して会場を周れる大会になることを願っています。その事が今後の全国で開催される国スポのモデルとなれば良いと思います。ちなみに私自身、本大会の観覧とボランティア（開会式受付）に行く予定です。その場で気づいた事も言う事でより良い大会になればと思って応募しました。

今後、福岡空港の全面開業や福岡市民会館の建て替え、また福岡市街地の再開発など多くのハード的な建物が完成していくので、事前の要望と完成時のバリアフリーチェックを今までのように地元の障害当事者の皆さんと一緒に参画していければと思っています。その事で福岡や九州がバリアフリーやユニバーサルデザインのモデル地域になっていく事を願ってやみません。モデルがあればその後を作る建物はより良くなると思います。また細かい改善点はユーザーである障害当事者が参画するのが大事だと、以上の事からも裏付けされているので、これからも地元の障害当事者の方々と連携協力していければと思っています。今後とも福岡や九州の皆様の協力をお願いいたします。私自身、福岡や九州が大好きなのでちょくちょく行って関わればと思っています。

地域のバリアフリー点検に参加して

～ 筑後南小学校・コミュニティセンター ～

東 聖 二

6月17日、新設された筑後南小学校とコミュニティセンターのバリアフリー点検活動に参加しました。

筑後市ボランティア連絡協議会から呼びかけがあり、障害当事者（身体障害、視覚障害、聴覚障害）、福祉関係者など15名が参加しました。

全体的にバリアフリー化は進み、利用しやすい建物でしたが、児童昇降口の段差解消など改善点もあり市に提案しました。

学校は、誰もが安心して学べる場所であると共に災害時の避難所としての役割があります。これからも当事者の声を伝えながらバリアフリー化を進めていきたいと思えます。

□改善指摘事項

① 児童昇降口

土間から下駄箱への通路に約2cmの段差があります。僅かな段差であり、識別しにくいので、車イス使用者や松葉杖使用者が安全に一人で通行できません。速やかに段差を解消してください。



② メモリアルホールエレベーター

車イス使用者が一人乗るにも狭すぎます。電動車イス等少し大きい車イスの使用者は使用できません。また、各階の乗場操作盤（ホール

ボタン）の設置位置が高いため、腕が上がりにくい車イス使用者は操作できません。速やかに操作盤の位置を下げてください。

③ 手洗い場

各所に設けられている手洗い場は、カラフルなデザインのものもあり良いのですが、車イス使用者が蛇口に手が届きません。下部を開口することで車イスでも寄り付くことができるようになります。速やかに改善してください。



④ コインタイマー、照明等操作盤

各部屋のコインタイマーや照明等の操作盤の設置位置が高いため、車イス使用者が操作できません。速やかに、設置位置を下げる等の改善をしてください。体育館のコインタイマーと同じ高さにしてください。

⑤ 体育館ステージ段差

体育館のステージに上がるためには、階段しがなく、スロープがないため、車イス使用者は一人でステージに上がることができません。側室にスロープを設ける等の合理的な配慮を検討してください。



【連載】 新入会員投稿

児玉 良介

●自立生活運動との出会い

私は大学を卒業し、再び実家での生活が始まった。半年あまりが経った頃、新たな転機がやってきた。私に大学復学を勧めてくれたソーシャルワーカーが、1人の障害者を紹介してくれた。

名前をIさんと言った。脳性マヒで、手足に障害を持ち、電動車いすに乗っていたが、コントローラーを手で操作することが難しいため、改造をしてあごで操作できるようにしていた。着替えや食事、入浴など、生活のほとんどに介助を必要としており、言葉にも軽い障害を持っていた。彼女は慣れた口調で、普段の生活のことを私に話して聞かせてくれた。それは私にとって、衝撃的な内容だった。

彼女は行きたいところに、1人でバスや電車に乗って出かけ、周囲の人達のちょっとした手助けを借りながら、買い物や食事、友達との映画やカラオケなどを楽しんでいた。友達を介助者に、泊まりがけの旅行、海外旅行にも出かけていく人だった。必要とする介助の量を考えた場合、彼女の障害は、私の障害より2倍は重いと思われたが、彼女は私の3倍はたくましく、5倍は活動的で、10倍は生活を楽しんでいた。

私といえば、大学時代、親友と呼べる人にさえも、トイレなどの介助を頼むことに低抗があった。バスや電車に乗ってショッピングや映画に行くことなど考えたこともなかった。

Iさんは、自立生活センターというものの設立を目指す、グループの一員だった。自立生活センターとは、地域で自立した生活を送っている障害者が、これから自立していこうとする障害者へ、介助者を派遣したり、自立のための講座を開いたり、情報提供などを行ったり団体で、



前列右から2番目がIさん、3番目が児玉さん

現在では、全国に大小約120カ所を数える。

このセンターでは、「障害を悪いものとしてとらえない」という考え方があり、その設立を目指すIさん達グループも又、私がそれまで知っていた障害者達とは異なり、障害を自分の一部として受け入れているようなところがあり、実に活動的な人達だった。

「自分もみんなのように、バスや電車に乗って行きたいところへ行き、やりたいことをやってみよう。みんながやっとなんやけ、自分にだってやれんはずはない」。

1995年秋、Iさんと出会って1年後、私はついにひとつのチャレンジを行うことを決めた。それは、自宅から一番近いJRの駅から1人で電車に乗って、5つほど先の駅の横にできたショッピングセンターへ行き、半日をそこで過ごし、再び電車に乗って帰ってくることであった。ショッピングセンターでは、1人で食事をし、トイレの介助を店員にお願いしてやってもらうことにした。当時の私の排尿というのは、ズボンの裾を膝下までたくし上げ、すね辺りにつけたビニール製の尿バッグを、先端のキャップをゆるめて、空にするという作業だった。

障害者になって以来、電車に乗るのは初めてだった。家族やヘルパー、友達以外の人に、ト

イレ介助をお願いするのも初めてだった。

当日は、とにかく緊張していた。妹に車で駅まで送ってもらった後、私は切符を買い、駅員にどの列車に乗るかを伝えたはずだが、覚えていない。その駅には貨物用のエレベーターがあり、それを使ってホームまで行き、電車に乗ったはずだが、それも覚えていない。Iさんたちから「親切でない駅員」のことをいろいろと聞かされていて、そんな駅員に出くわしたらどうしようと、ドキドキしていた。

電車に乗ってから後のことは、よく覚えていて、手すりに腕をからませ、30分程揺られた後に、目的の駅に着いた。駅員が三人迎えに来ており、慣れた感じで私の車いすを持ち上げ、長い階段を上って下りた。

ショッピングセンターはその年にできたばかりで、障害者や高齢者のお客に配慮し、出入口やエレベーター、トイレなどを、利用しやすいものにしていて。

それでまずは食事をした。それほど空腹でもなかったのですが、ミスタードーナツに行き、2つほど買って食べた。その後、最大のチャレンジである、「トイレ介助をお願いする」番になった。まずは、身障者用のトイレの中に入って、段取りを頭に入れた。次に、親切そうで、手際の良さそうな男性の店員を探した。そして運良く、トイレのすぐ横の売場に、そんな男性店員を見つけた。

私はその男性店員に、「すみません。ちょっと用をたしたいんですが、手伝っていただけませんか」と話しかけた。心の中で何度も練習したセリフだ。その店員は少しためらった表情で、「私でできますか」と聞いてきたので、「大丈夫です」と私は答えた。後はもう頭に入れておいた段取り通りにやるだけだった。そして無事、介助をしてもらうことができた。

買い物は結局、文房具売り場で小物を買っただけだった。その後、駅に向かい、行きと同じく長い階段を駅員にかついでもらい、上って下り、電車に乗った。帰りはすんなりといった。行きに乗車した駅で下車し、再び貨物用のエレベーターを利用し、駅の外へ出た。駅員も不親切ではなかったと思う。駅から家までは、市内の福祉団体が運行しているリフトカーを利用した。そして無事、私は家に帰り着いた。

私にとって、それは大冒険だった。1人で電車に乗って買い物に行けたことは、その後の生活の幅を大きく広げることになったが、それ以上のものを得ることができた。その晩私は、自分の勇気をほめてやりたいという思いで、胸がいっぱいになった。障害を持って以来、自分自身のことをそんなふうに思うのは初めてのことだった。

(次号に続く)

編集後記

今号では、大久保さんにご寄稿いただきました。全国でバリアフリーチェックを行っているからこそ見える福岡のバリアフリーの課題。これからも一緒に解決していきたいと思います。

9月になっても異例の暑さが続き、体温調整が難しい脊髄損傷者には体にこたえる日々です。

皆様もお体を大切にお過ごしください。(H)

